

残薬

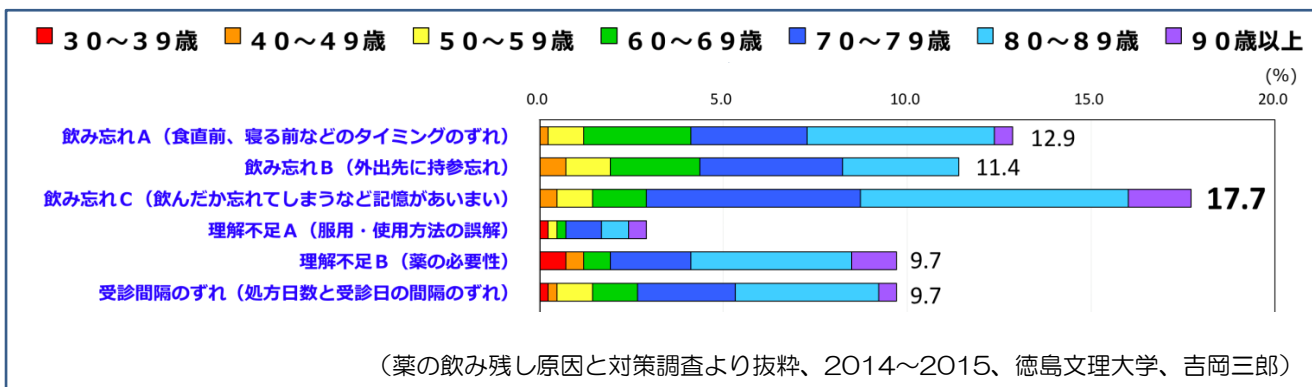
飲み残し薬発生の原因考察と対応

薬剤部長
川添 哲嗣

残薬問題は2つの意味で深刻である。一つは患者さんの健康面の問題。飲み忘れることによって、医師の考える治療効果が十分に出ない。結局は患者さん自身の不利益となる。

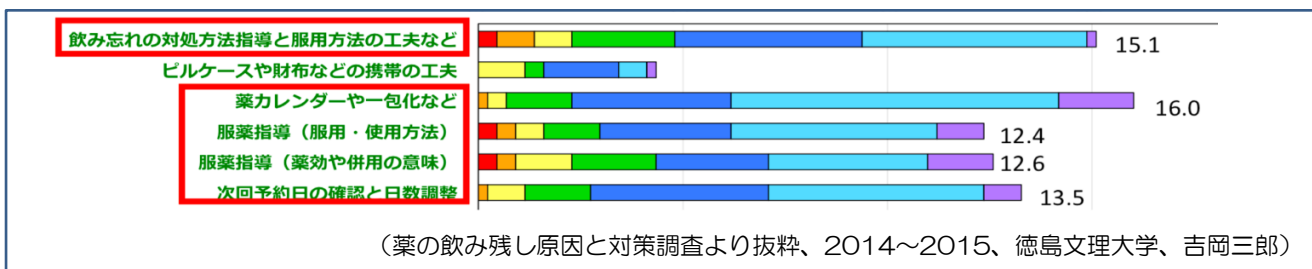
もう一つは医療財政面の問題。ある調査では高齢者だけでも年間500億円もの医薬品を飲み残しているという結果が出ている。つまり高齢者以外も含めるとさらに大きな額の医療費が無駄になっていることになる。

そこで、平成26～27年にかけて高知県と薬剤師会とタッグを組み、徳島文理大学の吉岡教授の助けを得ながら「残薬発生原因とその対策」に関する調査を行なった。その結果、原因として多かったものを抜粋して下記にグラフで示す。



このグラフを「単純な飲み忘れ」と「勘違い」と捉えることもできるが、70歳以上でその率が高いことを考えるとこれは「認識力の低下」と「理解力の低下」と捉えることもできる。

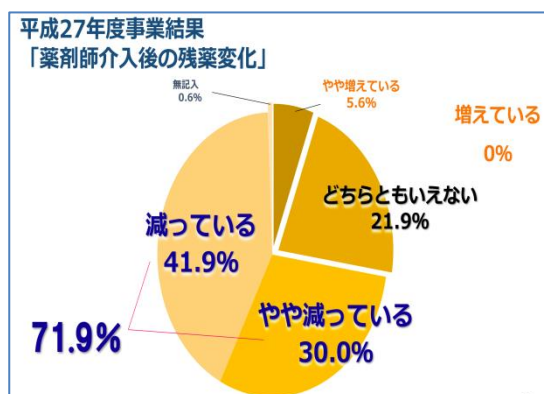
では、それらを補うための策はどうなるのか。この2年間の調査において、薬剤師がとった対策(下記グラフ参)の結果から考察すると、「きちんとした服薬指導」と「飲み忘れないための工夫」ということになる。つまりは薬への理解力と認識力を上げるための地道な基本的取り組みが大事というわけである。



この薬剤師の介入の結果、右のグラフが示す通り、70%以上の患者さんの飲み残しが減っている。つまり、原因を明確にし、個々に対策をとっていけば残薬は減るということになる。

今回はここまで。次回は薬剤師と地域の訪問看護、ケアマネジャー、ヘルパーらが協働で残薬問題に取り組む事業についてご紹介したい。

(次号へ続く)



職員旅行

日帰り

大川村謝肉祭

H28.11.3(木)

富久美味

H28.11.13・20(日)



3病棟 看護師 山口 沙希

今年初めて職員旅行に参加しました。職員旅行は今まで参加したことがなく、1泊のコースに参加してみたかったのですが、子供が小さく断念しました。しかし、日帰り旅行は、子供も参加可能とのことだったので、2コースあり迷いましたが謝肉祭に参加してきました。

病棟以外のスタッフさんと関わることがない事と、息子がぐずって迷惑をかけないか心配でしたが、皆さん息子共々暖かく迎えてくれました。会場につくと強風と寒さで少し驚きましたが、日中はお天気も良く、絶好の焼き肉日和でした。集合写真を撮り席に着くと火がついており、とってもほっこり暖かかったです。鶏肉、牛肉、野菜のセットでたれを入れる器は竹で作られていて、日本酒は飲み放題でしたが、子供と一緒にだったので残念ながら飲めませんでした。お肉が食べ切れないほどたくさんあり、お腹はいっぱいになりました。山の中で息子もたくさんの自然にふれあえる事ができ、私自身も良いリフレッシュとなり、充実した時間となりました。また次回の旅行にも参加してみたいです。



5病棟 看護師 西田 真衣

10月中旬に、富久美味さんに行ってきました。バスに乗りワイワイ言いながら目的地に到着してすぐに2階のお座敷へ。目の前には伊勢エビを始めとしたお造りがたくさん！すぐに乾杯を行い食事開始となりました。プリプリなエビや魚の刺身を堪能していると、次に運ばれてきたのはゆでた伊勢エビがまるごと一匹。剥き方指導に沿って自分で剥いて、お腹いっぱい頂いてきました。子供さん連れの方もいましたが、お子様ランチが出ていたようで「美味しい」という声が聞かれていました。次回は子供も連れて参加してみたいなと思いました。

3病棟 看護師 松下 愛香

私は、今回初めて職員旅行に参加させて頂きました。元々あまり団体行動を取ることが得意ではなく、ほとんど会ったことのない職場の人たちと一泊二日過ごすことについて不安に思っていたのですが、旅行中は周りの方々が気に掛けて下さり、楽しく過ごすことができました。普段全く交流の機会がなかった他部署の方々と、今回の職員

1泊2日

神戸・京都

H28.8.24(水)～
25(木)

旅行がきっかけで関わることができて良かったと思いました。「夏の京都」ということでとても暑かったですが、暑さよりも楽しかったという印象が強く残りました。今回参加することができて本当に良かったです。次回も、ぜひ参加させて頂きたいです。